

# 「尼崎21世紀の森づくり」と「すき間緑化」の取り組みについて

村上 義徳  
(尼崎南部グリーンワークス)

## 1. 「尼崎21世紀の森づくり」と尼崎南部の状況

「尼崎21世紀の森づくり」とは、国道43号より南の地域(1000ha)を対象に、以下のことを21世紀100年にわたる長期の取組として、市民、企業、行政等と一緒に進めていくものである。

- 森をつくり、美しい自然を取りもどす
- 人々がいきいきと活動する環境にやさしいまちをつくる
- 緑あふれるまちでの産業の活性化を応援する

これまでは兵庫県と尼崎市といった行政が協議会や部会を設置し、その中で市民が行政と共に活動を進めてきたが、尼崎南部の工業地帯で緑化活動を進める中で様々な課題がわかってきた。その中で我々が感じたことは、大規模工場ではなく、小規模工場の緑が特に少ないという現実であった。

## 2. 小規模工場の緑化の課題と尼崎南部グリーンワークスの誕生

小規模工場には、緑化に対して以下の課題があった。

- 建物が敷地いっぱい建てられているので緑地スペースを十分に確保できない
- 樹木の維持管理に手間や費用をかけにくい
- 法律や条例の対象とならないなどのため緑化に積極的でない

特に最後の課題が深刻で、工場立地法では敷地面積9000平米以上または建築面積3000平米以上の工場・事業所には20%以上の緑化が義務づけられているが、それに満たない小規模工場には緑化義務がない。行政が指導することができないのであれば、市民が企業と手と手を取り合って緑化を進められないかと考えていたところ、メンバーの中に尼崎鉄工団地協同組合の理事長がおり、「一緒にやってもらえるのなら」と活動が始まった。以後、「尼崎21世紀の森づくり」から市民組織である尼崎南部グリーンワークスを立ち上げ、外部資金も獲得しながら小規模工場の緑化を進めている。

## 3. 工場緑化のコンセプトと現状

小規模工場での緑化は、上記の課題をふまえて、「市民(企業)が、工場の現状(コンクリート、波板など)に併せて、狭いスペースでも環境に配慮した緑化や修景を行えるモデルづくり」を目標に、以下のコンセプトで進めている。

- 季節ごとにきれいな花が咲くもの
- 壁面緑化の見本市とする(実験的かつ宣伝的意味合い、モデル性を持たせる)
- 工場の建物や空きスペースを活かす
- 工場の製品(廃材、廃品含む)を活かす
- 安価で簡易に誰でもできる

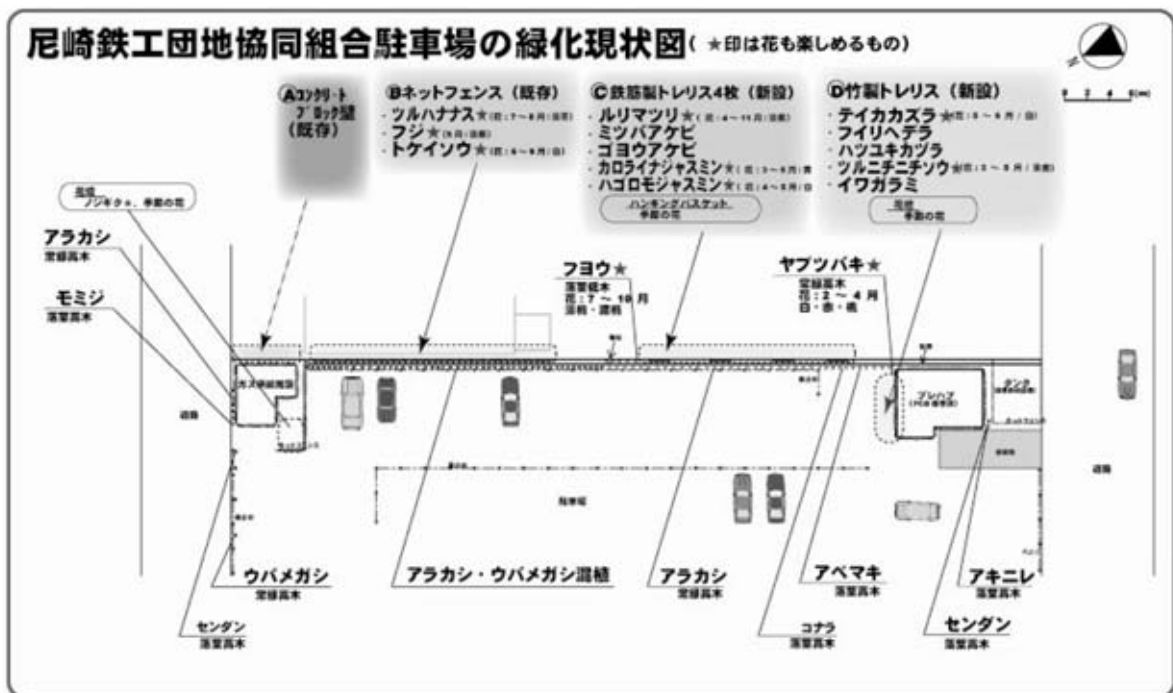
以上を「すき間緑化」と称して進めている。まずは鉄工団地協同組合の駐車場のすき間を利用して、「こんな簡単ならうちでもやってみよう」と思ってもらえる緑化展示場づくりを始めた。



上空から見た尼崎南部の小規模工場群



尼崎鉄工団地協同組合駐車場の様子



#### 4. 活動内容

毎週第1土曜日に鉄工団地協同組合に集まり、活動内容の検討と緑化作業を進めている。基本的には日常の活動を見た工場関係者から「うちも緑化して欲しい」との依頼を受けるが、それ以外にも鉄工団地の敷地内を歩き、依頼のない工場の緑化プランをつくり、提案することもある。これまでに鉄工団地協同組合の駐車場と、5箇所の小規模工場の緑化支援をした実績がある。

基本は郷土種によるメンテナンスが省力で済む緑化である。これに、はじめて緑化活動をする工場の方々も楽しめる花ものを組み合わせて、共に理解し合って尼崎南部の緑を増やしていきたい。

## 5. これからの活動

工場で最も多い緑化場所は壁面である。そこをどれだけ簡単・安価に緑化するかが、今はまだ関心の薄い工場の方々に理解してもらえるかどうかの境界なので、様々なニーズに応えられるような緑化を提案していきたい。

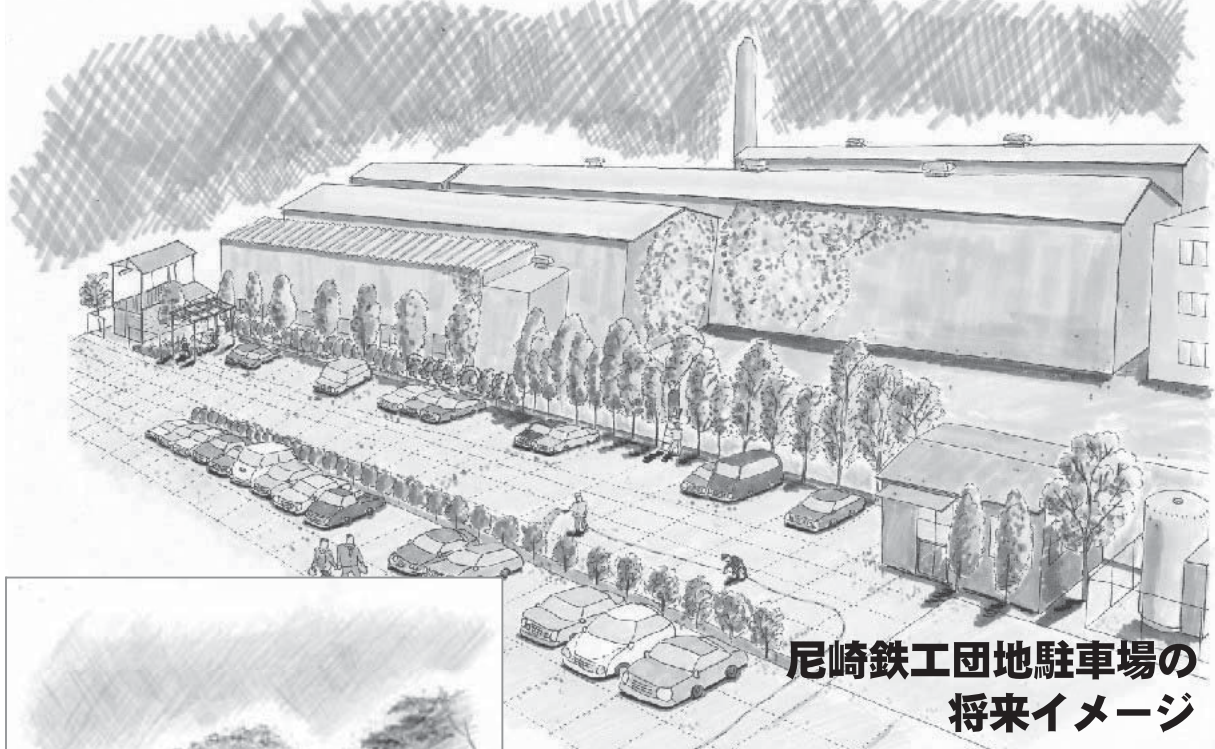
中・低木による壁際緑化



ハンギングポットを利用した壁面緑化



ツル植物を利用した壁面緑化



ネットフェンス・コンクリート壁を利用した  
すき間緑化



プレハブ小屋を利用したすき間緑化